

医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画

2024年4月策定

1 勤務医（医師）の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
外来初診時選定療養費の実施	継続取組	患者相談サポートセンター看護師が受診相談を受けて適切な受診先の相談を受ける体制を整える。
初診時の問診の実施	継続取組	看護師長が、シフトを組み総合受付業務を開始した。診察前に問診を実施することで適切な診療科への案内を行うように体制を整えた。
静脈採血等の実施	継続取組	静脈採血等の実施としては、採血の担当看護師と当日の担当診療科の看護師がチームで採血実施している。診察前に生体検査検体取得のための静脈採血を行っている。
入院の説明の実施	継続取組	取り組み継続。
検査手順の説明実施	継続取組	検査前の説明を医師だけでなく、検査項目パンフレット等を利用し看護師による説明を行い患者さんの安心・安全・適切な検査が実施できるような環境を整え、身体的・精神的な不安の解消に努める。
薬の説明や服薬の指導	継続取組	全病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務としてハイリスク薬の投与前説明、退院時薬剤的管理指導ならびに医師の依頼に基づき薬剤管理指導を実施。
PBPM（Protocol Based Pharmacotherapy management）に基づく薬剤師の処方代行の実施	継続取組	2022年度達成。医師と事前合意されたプロトコルに基づき薬剤師の代行入力を認めるものであるが医行為である医師の処方権を侵害するものでなく、薬剤師が処方提案して医師が合意したものないしは、医師が手術中や緊急やむを得ない時に医師が薬剤師に指示し、最終的に医師が確認して薬剤師による処方代行を認めるものとする。
検査技師によるエコー検査の実施	継続取組	2022年度達成。専門的な知識と技術を修得した生理部門の検査技師（超音波検査士含む）がエコー検査を担当することにより、医師の受け持つエコー対象患者数の減少を図っている。今後更にエコー検査の実施可能な技師を養成予定。
医師事務作業補助者の配置	継続取組	医師事務作業補助者を配置・育成し、医師の指示のもと診断書などの文書作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業、並びに行政上の業務を行い、医師の業務負担軽減を図る。15：1の配置を継続し、さらなる業務拡大を目指す。
チーム医療の促進	継続取組	看護師の知識と技術を向上させることにより、医師との業務分担を更に推進すると共に、栄養士や薬剤師・検査技師・放射線技師、臨床工学技士等の医療技術部門においてもその活動範囲を拡大することにより、常勤医の負担軽減を図る。 社会的問題の解決については、MSWが対応できる体制をとっている。 虐待対応については、医師単独で対応せず、病院の委員会に対応し、主治医の負担軽減を図っている。
院内処方箋における疑義照会適正化プロトコル	継続取組	院内処方箋についてプロトコルを作成し、薬剤部で対応できるものについては対応し、医師へ報告することで医師の負担軽減を図る。
情報通信機器を活用した業務効率化・省力化の推進	継続取組	DX推進委員会を立ち上げ、推進を図る。

② 医師の勤務体制等にかかる取組

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	継続取組	2夜連続での当直割り振りは行わない。
当直翌日の業務内容に対する配慮	継続取組	目標達成年次：2024年度 適正な勤務時間管理を行い、勤務間インターバルを確保する仕組みを構築する。
非常勤医師の活用	継続取組	救急センター及び透析センターにおける勤務については、院内常勤医の他に他医療機関からの非常勤医を交えてそのローテーションを組むことにより、常勤医の負担を軽減中である。
夜間当直業務の軽減	継続取組	目標達成年次：2024年度 夜間帯業務の取り扱いを見直し、交替勤務制・複数主治医制が導入可能であるかを検討する。
短時間勤務の導入	継続取組	子育て中の医師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入中。

2 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 看護師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
入院患者の持参薬確認業務等の分担	継続取組	病棟薬剤師の導入による持参薬確認業務等の分担を行う。
採血業務の分担	継続取組	外来に、採血業務の看護師を2名配置し外来看護師の採血業務の負担軽減に努めた。臨床検査科から随時技師を配置した。2024年度より臨床検査技師2名配置予定。
医療機器の管理分担	継続取組	機器管理システムを有効活用し、医療機器の標準化をめざし更新計画策定にも携わる。
クレークの配置	継続取組	各病棟・外来へのクレークの適正配置を継続して実行していく。
夜勤減免制度の導入	継続取組	小学校始期に達するまでの子のある職員は深夜勤務及び時間外勤務を制限可能とする。
短時間勤務の導入	継続取組	子育て中の看護師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入中。
看護補助者の配置	継続取組	委託職員の継続的配置を行うとともに、直接雇用の職員の確保に努める。

② 看護師の勤務体制等にかかる取組

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
★ 11時間以上の勤務間隔の確保	継続取組	管理当直明けの代休、翌日遅出業務が出来ていない職員への周知徹底を図る。
★ 夜勤の連続回数が2連続（2回）まで	継続取組	夜勤専従を置いた場合2連続以上となるため、看護師確保への取組みを継続する。
★ 暦日の休日の確保	継続取組	勤務希望の調整を図り、平等に取れるように配慮する。
★ 早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫	継続取組	時短看護師の業務内容を検討し、看護師の早出・遅出業務を合わせて考える。
看護補助業務のうち50%以上が療養生活上の世話	継続取組	委託職員の継続的配置を行う。
★ 看護補助者の夜間配置	継続取組	委託職員の継続的配置を行う。
★ みなしを除いた看護補助者比率50%以上	継続取組	処遇改善を図り、離職防止に努める。
★ ICT、AI、IoT等の活用による業務負担軽減	検討中	DX推進委員会を立ち上げ、推進を図る

※★4項目以上で看護職員夜間配置加算算定可能

3 その他

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
職員のメンタルヘルスを支援する体制を整える	継続取組	相談窓口（相談員）について周知し、予約に空きがある場合は随時アナウンスを行い、カウンセリング実施率の向上を図る。
ハラスメントのない職場環境をつくる	継続取組	ハラスメントに関する情報を発信する。また、2022年度に規程の見直しを行ったため、職員への周知を行う。 相談窓口（相談員）について周知する。
管理職等の職員の意識改革	継続取組	階層別・職種別の研修を計画的に行う。